

85th 新制作展 スペースデザイン部受賞作家展

2023年2月5日～11日 建築会館ギャラリー
出品作家：梅田佳津子・公文知洋子・白石千穂・田村純

<会場風景>



<梅田佳津子 作品>



『ブランク1』『ブランク2』
(素材：ステンレスリング、綿糸、絹糸)



『コントラスト』
(素材：ステンレスリング、綿糸)

編みは一本の糸で平面になる。糸と糸の間に隙間があり、下に引っ張ると糸の違いで穴の形が異なってくる。すき間の魅力はテンションをかけると糸の関係により有機的な形ができる可能性があり、面の表面が変化することです。編みという技法でできる面に作為的にテンションをかけ、人工的にすき間をつくる。
堀内紀子氏の言う、糸と糸が交わってできるすき間、その関係性が布を構成する。編みの可能性のメリット、デメリットを探していくつもりです。(梅田佳津子)

<公文知洋子 作品>



『WORK23』

(素材：藍染綿古布、裂織布、絹布古布、ポリエステル糸、ジュート麻)

このインスタレーション作品は 2006 年のベルン（スイス）でのスイス人、ポーランド人と私とのテキスタイル作家 3 人展で生まれました。その後、幾度が展示の機会があり、その都度追加制作したり、また展示空間によって様々に構成は変化しています。かわらないのは赤い布に映る影、その影は陽射しや風によって変化が生じ、優しい影は鑑賞の方々に感動を与えています。(公文知洋子)

<白石千穂 作品>



『Window』
(素材：リネン、ポリエステル)

「いつもと変わらない風景」
よく聞くこのフレーズを少し不思議に思う。
本当に変化してないのだろうか。
意識的に「同じ」と思い込むが、ゆったりと日々は移ろう。
そういったイメージを織物の技法を使用して表現しています。(白石千穂)

<田村純也 作品>



『nisor ニソロ』『nitay ニタイ』『nupuri ヌプリ』『tuk トウク』
(素材：バルサ、札幌軟石)

「nisor ニソロ」は天空、
「nitay ニタイ」は原生や森、
「nupuri ヌプリ」は山。
「tuk トウク」は突出や生長を意味する アイヌ語。(田村純也)

<記念撮影>



初日の2月5日にはオープニングセレモニーとして約1時間半に渡り作家たちの交流会が和やかに行われました。